

学生による地域子育て支援活動「とことこ広場」  
共に育ちあう子育て支援



キーワード: 子ども、子育て支援、保育、保育者育成、共に育つ、

○活動に取り組んだきっかけ・背景

保育学を学ぶ学生には、実際の子育て家庭と触れ合うことにより実践的学びが期待され、その一方で孤立化する現代の子育ては、子育て親子の集う場所が求められています。そこで、地域の子育て親子と保育科学生とが、長期的にかかわりながら共に育ちあう場となるよう、子育て支援活動「とことこ広場」を開催しています。

○活動の目的

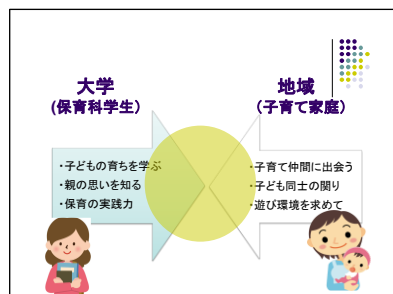
学生は、子どもの成長を継続的に学び、子育ての現状や子育て支援の必要性について理解することを目的とします。また母親の思いに触れ、保育者としての役割や保育実践力・支援力を養います。参加者は、安心して子育てができる環境を感じとり、子どもを中心に共に育ちあう地域環境の理解を深めていきます。

○具体的な内容

学内にある子育て支援室において、月 2 回(年間 12 回)「とことこ広場」は開催され、0 歳～3 歳未満(未就園)の親子 20 組が参加します。親子は、興味のある玩具を体験したり、そこに居合わせた子どもと遊んだりしながら、人と関わる力を豊かに育てていきます。子どもにとっては、学生や教員と関わることも家族以外の人を知る大切な場であり、さまざまな人と安心してつながる楽しさを育てます。母親同士は、徐々に関係をつくり、何気ない話や子育ての思いを共有していきます。学生は、子どもの成長段階や個人差に応じて玩具や環境を準備し、手遊びや絵本の読み聞かせ等も実践します。また学生にとって母親との対話は、親の思いを身近に感じさせ、この経験が子どもへの理解を深め、子どもから学ぼうとする保育者としての心持ちを気づかせていきます。

○期待される効果など

地域の子育て親子が、孤立した子育てに陥らず、不安や困難さを軽減することが期待されます。また子育ては、共に育ちあい共に生きる地域社会の核となることを理解し、地域のなかで子どもが育つことについて再び考えることができます。学内の学生及び教職員においても、子どもの笑顔に触れながら多くの課題を考えていきます。



教員名 加藤寿子  
所属学部・学科 短大部・保育科  
職位 准教授

連携先  
幼児教育支援センター